

「矢祭子にも司書」の皆さんへ

子にも司書の認定を受けられた十九名の、
先生の皆さん、一年間にわたって、十二回に
わたる特別の講座を受けられて、いかがでした
か？

みなさんか、もし司書の仕事を学びたいか
たり、学校の図書室でも、たいがい図書館で
本を借りて読むだけで、小学校を卒業してし

まうことにはなっていない。しかし、皆さん
は、図書館に勤めている人が本の内容によつ
て、きちんと分類して、利用する人が本を探
するをお手伝いしたり、子にもたまたま対象に
読み聞かせの会をしたり、俳句スリールを聞
いたりするたい、いろいろなさしている
のを学んだわけですね。

そして、本を貸し出す人の側に立って、図
書館を眺めてみると、本にはほんとうにいろ
いろ種類があり、あるのを知って驚いたことし

ぶうし、これ着てよりずと本に親しみを感
 じるあつた。たことでは、う。本の全体を
 見る目を持てるあうになつたわけです。そう
 いうのを「視野が広くなつた」と言います。
 この本なことで、自分に必要なことを利用
 するだけなく、サービスマンをしてくれる側は
 なつて物事を見ると、社会を見る目がどんど
 んなくなつていきます。

片田さんが図書館について学んだことは、
 社会を見る目を開く、とても貴重な一歩に毛
 打つたのです。とくに本の世界を見る目がた
 くなつたことは、一生を通じて役に立つ心の
 財産になるに違いありません。

本に親しみをもち、大人になつても本を読
 むのが好きならば、ものを感ずる感性がいつ
 までも衰えないで、心の豊かな人生を送るこ
 とができるのうになります。皆さん、この一
 年間に学んだことを振り返つて、忘れないよ
 うにしてください。

子とモ司書という学ば、ほかの町や村で

は、全国を見渡しても、ほとんどの取り組んで
 いません。皆さん、矢祭町の小学生でよかつ
 たんですね。大きく城がたけ、学校の読み聞
 かせのポランティヤやもつたいな図書館の
 お手伝いをする。ポランティヤの活動をしてく
 りたい。そして、いつかでも本を愛してくだ
 さい。

今日をそういう人生を目指すスタートの日
 と考えましょう！

平成二十二年二月二十日

インフィクション発表

柳田 邦男